



3/26-27  
TWIN RING  
MOTEGI



6/18-19  
FESTIKA CIRCUIT  
MIZUNAMI



7/9-10  
MOBARA  
TWIN CIRCUIT



9/17-18  
SPORT LAND  
SUGO



10/22-23  
SUZUKA  
CIRCUIT

# 太田格之進が雨中で躍進 一時はトップを快走



## 2016年オートボックス 全日本カート選手権 第7戦・第8戦

■開催日: 9月17~18日 ■開催場所: 宮城県・スポーツランドSUGO ■天候: 17日 曇り/18日 雨 ■路面状況: 17日ドライ/18日ウェット ■参加台数: 25台

シリーズ終盤戦となる全日本カート選手権KFクラス第7戦/8戦は、宮城県・スポーツランドSUGO西コースで開催された。このコースは日本における国際カートコースの草分けで、かつてジャパンカートグランプリの会場となり少年時代のアイルトン・セナも走ったことでも知られている。昨年もCIKアジアパシフィック選手権やTOYOTA SLカートミーティング全国大会などのビッグイベントが開催され、全国から多数のレーシングカートドライバーを集めている。

大会は今回も2日間で開催された。その初日に実施されたタイムトライアルは、空一面を覆う雲からほんの少し雨粒が落ちるコンディションの下、参加全車をA/Bふたつのグループに分けて行なわれた。Aグループに出走した三宅淳詞(31号車)は、ベストタイムを狙った周で前走車にひっかかったためグループ内の5番手に留まったが、タイム自体はトップから僅か0.176秒しか遅れておらず、手応えは良好だった。一方、Bグループに出走した太田格之進(30号車)はマシンの動きに問題があり、グループ内の6番手でこのセッションを終えた。第7戦/第8戦の予選ヒートのスターティンググリッドとなるタイムトライアルの総合順位は、三宅が8番手、太田が16番手だった。







### 第7戦 太田格之進：予選6位・決勝22位 / 三宅淳詞：予選15位・決勝12位

#### 予選ヒート (17周)

公式練習の時間帯より少し雨脚が強まった中で予選がスタートすると、タイムトライアルではやや不調だった太田が躍進を見せた。ドライコンディションだった前日とはタイヤが変わったこともあってマシンの動きの問題が解消した太田は、6周目にトップ10圏内まで浮上すると、その後も快調に順位を上げていき、スターティンググリッドから10ポジションアップの6位でこのヒートをゴールした。

一方、三宅は苦手意識のあるレインコンディションに手を焼いてスタート直後から徐々にポジションを下げていき、一時は16番手まで順位を下げた。それでも三宅は苦しい状況の中で粘り強く走り続け、15位でこのヒートを終えた。

#### 決勝ヒート (28周)

決勝の開始予定時間は午前11時過ぎなのだが、風が吹き始めたこともあって朝から気温が上がらない中で28週のレースがスタートした。

太田は1周目に7番手へ後退したのだが、翌周に6番手へ戻ると、4周目には5番手に浮上、13周目には4番手となって表彰台を狙える位置まで上がってきた。しかし15周目、太田は7コーナー入口でブレーキングを僅かにミスしコースを飛び出してスポンジバリアにぶつかり、無念のリタイアに終わった。

三宅は予選の苦境を脱することはできていなかったのだが、時を追って雨量が変化する難しいコンディションの中で奮闘を続け、ポイント獲得圏内の12位でフィニッシュした。

### 2016年全日本カート選手権 KF class 第7戦 リザルト (25台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	5	佐々木 大樹	TONYKART RACING TEAM JAPAN	28
2	21	三村 壮太郎	Croc Promotion	28
3	12	小高 一斗	ADVAN HIROTEX	28
12	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	28
22	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	14

### 第8戦 太田格之進：予選2位・決勝6位 / 三宅淳詞：予選6位・決勝22位

#### 予選ヒート (17周)

レースの時間に雨はほとんど止んだのだが、路面コンディションはなかなか回復する様子を見せず、第8戦の予選もレインタイヤを装着してのレースとなった。

再び16番手から予選をスタートした太田は、前方でアクシデントが発生する危険な状況を巧みにかいくぐって一気に順位を上げ、3周目には3番手へ、4周目には2番手へと浮上した。太田はその後も周囲のマシンとバトルを続け、幾度かのポジションチェンジの末に2位でゴールした。決勝はKFクラスでは自己最上位となるグリッド最前列からのスタートとなった。三宅は第7戦とは打って変わって活気あふれる走りを披露して、8番グリッドから順位を上げていき、レース中盤には3位争いの集団に加わった。だが、その勢いは終盤に入ってやや影を潜め、三宅は2台の先行を許して6位で予選を終えた。

#### 決勝ヒート (28周)

空から再び細かい雨粒が舞い始め、肌寒いコンディションの中でこの日最後のレースが始まった。

目の前に誰もいないポジションから発進した太田は、見事なスタートを決めて一気にトップへ浮上すると、ライバル全車を引き連れて堂々と周回を重ねていく。しかし、好調だった予選とは違って太田のマシンのタイヤのグリップ不足の症状が現れており、7周目に先頭を他車に明け渡すと、その後もじわじわと順位を下げていく。それでも太田は全力を振り絞ってポジションダウンを最小限に食い止め、KFクラスで自己最上位となる6位でチェッカーフラッグを受けた。三宅も太田と同様に好スタートを決め、3つポジションを上げて3番手に浮上した。だが、予選で見た攻めた走りの影響で三宅のタイヤは磨耗が進んでおり、その後は徐々に順位を下げていく。そして7番手走行中の6周目、三宅は縁石に乗り上げてチェーンが外れて、ここでレースを終えることとなった。

### 2016年全日本カート選手権 KF class 第8戦 リザルト (25台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	5	佐々木 大樹	TONYKART RACING TEAM JAPAN	28
2	12	小高 一斗	ADVAN HIROTEX	28
3	24	大草 りき	スクーデリアLCT	28
6	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	28
22	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	5

**チーム代表 片岡 龍也** / *Tatsuya KATAOKA*


太田選手は、ドライコンディションでは苦しい部分もあったのですが、雨の決勝でトップを走るところまで盛り返してくれて、非常によく頑張ったと思います。

三宅選手は逆に、ドライコンディションのタイムトライアルでは1位を獲ってもおかしくないパフォーマンスを見せてくれたのですが、ウェットコンディションではKFクラス1年目とあって経験不足が否めず、厳しいレースになりました。今回学んだことを今後のレースに活かして欲しいですね。

チームとしては、ドライでもウェットでも良好なパフォーマンスを確認することができました。次の鈴鹿では、今の右肩上がりの勢いをぜひ結果につなげたいと思います。「TOYOTA YAMAHA RTここにあり!」という存在感をお見せできるよう、ドライバーたちとともに全力で頑張ります。

**30 太田 格之進** / *Kakunoshin OTA*
**AGE:17**


第7戦の予選では良いフィーリングで走ることができましたし、ペースも良くて自信を掴めたのですが、決勝ではブレーキの片効きでコースを飛び出してしまいました。マシンに大きなダメージがなかったことが幸いでした。

第8戦は、決勝で予選のような勢いがなく、特にリヤタイヤのグリップ不足が厳しい状態で、あの順位が精一杯でした。それでも、このチームに加入して初めてトップを走ることができて、すごく良い経験になりました。

次の鈴鹿は過去にローカルレースでチャンピオンを獲ったことのあるコースなので、是非、良いレースをお見せしたいと思います。

**31 三宅 淳詞** / *Atsushi MIYAKE*
**AGE:17**


雨が苦手だったため、第7戦は苦しいレースになってしまいました。そのレースで周りを観察してみて、自分の走りに勢いが無いと感じました。

その反省から第8戦では勢いよく走ることを心掛けたら、タイムは良くなったのですが、タイヤの磨耗が厳しくなっていました。自分でレースの流れを悪くしてしまったと思います。タイヤを上手にマネージメントすることの大切さを、改めて思い知らされました。

最終戦が行なわれる鈴鹿は、去年6戦5勝しているコースなので、落ち着いて走れば必ず上位になれると思います。まだKFクラスで経験のない優勝を狙います。

**総合ポイントランキング**

- 1.名取鉄平 (172) 2.宮田莉朋 (163) 3.朝日ターボ (161) 4.角田裕毅 (143) 5.高橋悠之 (129) 6.菅波冬悟 (112) 7.大草りき (101)  
 8.三村壮太郎 (99/99) **9.三宅淳詞 (82)** **10.太田格之進 (82)**